

## 風しん抗体検査のご案内

風しんの抗体がない女性が妊娠中に風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんに、難聴・心疾患・白内障などの症状（先天性風しん症候群）が現れる可能性があります。

大阪市では、赤ちゃんの先天性風しん症候群を予防するため、希望する方へ風しん抗体検査を実施しています。



### 対象者

希望する検査日において大阪市民（住民登録のある方）で、次のいずれかに該当する者

- (1) 妊娠を希望する女性
- (2) 妊娠を希望する女性の配偶者※
- (3) 妊婦の配偶者※
- (4) 妊娠を希望する女性の同居者※
- (5) 妊婦の同居者※

※配偶者については婚姻関係を問いません。

※同居者については妊娠を希望する女性もしくは妊婦と同じ住所の方が対象です。（ただし、(5)妊婦の同居者については、生活空間を同一にする頻度が高い方（例：里帰り先の家族）も対象です。）

※妊婦は妊婦健康診査の検査項目に風しん抗体検査が含まれるため、本事業の対象外です。

### 費用

無料

### 実施場所

取扱医療機関

※大阪市ホームページ「風しん抗体検査実施のお知らせ（先天性風しん症候群予防）」に掲載



読み取りはこちら

### 申し込み方法

事前に電話等で直接医療機関にお申し込みください。

### 持ち物

大阪市民であることが分かる公的書類（住所・生年月日・氏名の記載が必須）

### 検査内容

血液検査（HI法、EIA法等）

### 【大阪市風しんワクチンの接種費用助成について】

抗体検査により、風しん抗体価が低いと判明した方は「大阪市風しんワクチン接種費用助成」の対象となる場合があります。詳細については、大阪市ホームページ「風しんワクチンの接種費用助成のお知らせ」をご確認ください。



### <お問い合わせ先>

大阪市保健所感染症対策課（感染症グループ）  
〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町 1-2-7-1000  
TEL：06-6647-0813 FAX：06-6647-0803

## <風しんに関するQ & A>

### 風しん(三日はしか)はどんな病気？

風しんは、風しん患者のせきやくしゃみに含まれる風しんウイルスの感染によっておこる病気で、潜伏期間は14～21日間です。軽いかぜ症状ではじまり、発熱、発しん、あごから耳の後ろのリンパ節の腫れなどが主症状とされています。

特效薬はなく、治療は対症療法となります。



### 妊娠中に風しんにかかると、どんな影響がありますか？

抗体を持たない妊娠初期の妊婦（特に妊娠20週頃まで）が風しんウイルスに感染すると、胎児（赤ちゃん）にも感染することがあります。妊娠早期に感染するほどその危険性が高くなります。感染した赤ちゃんは先天性風しん症候群（難聴、白内障、心疾患など）を発症する可能性があります。

### 風しんは流行しているのですか？

平成24年に近畿地方及び関東地方を中心に風しんが流行し、平成25年には全国的に大流行しました。大阪市においても平成25年の風しん患者報告数は1,388件ありました。平成26年以降の発生数は落ち着きましたが、平成30年・31年には再度流行し、発生数が増加しました。その後、報告数は減少していますが、海外から持ち込まれる可能性もあり、予防接種歴のない方などは今後も注意が必要です。

### 風しんにかからないために大切なことは？



風しんに対する抗体の有無(血液検査)を確認することが大切です。確認の結果、抗体がない、あるいは抗体価が低い場合には、風しんワクチンの接種が感染予防に効果的です。風しんワクチンは妊娠中に接種をすることができないため、妊婦の方は出産後のワクチン接種をご検討ください。なお、接種後は2か月避妊する必要があります。

妊娠初期の抗体検査で抗体価が低いことがわかったら、特に妊娠20週になるまでは人ごみを避け、手洗い、うがい等の感染予防をすることが重要です。妊婦のパートナーや同居者で風しん抗体価が低い場合は、職場等で感染し、家庭内にウイルスを持ち帰る可能性がありますので、パートナーの方等のワクチン接種もお勧めします。

(2026年6月作成)